



令和8年1月30日
内閣府政策統括官(防災担当)

国内最大級の防災イベント 「第11回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい2026 in鳥取)」の 大会テーマをお知らせします

令和8年10月17日(土)、18日(日)に鳥取県倉吉市のエースパック未来中心、鳥取県立美術館周辺で開催される第11回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取)の大会テーマについてお知らせします。出展や来場を御検討されている皆様、奮って御参加ください。

大会テーマ

共に考え・備え・守る ~「支え愛」で守る命と暮らし~
(別添参照)

※後日、改めて出展者の募集案内をお知らせいたします。

【参考】防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)について

平成27年3月の「第3回国連防災世界会議」で採択された「仙台防災枠組 2015-2030」では、自助・共助の重要性が国際的な共通認識とされ、これを踏まえて防災推進国民会議が発足しました。平成28年より、内閣府防災担当は、防災推進国民会議及び、以前から災害被害軽減の国民運動の推進を目的として活動している防災推進協議会と協力し、国民全体の防災意識を向上させることを目的として、ぼうさいこくたいを毎年開催しています。

なお、過去の開催地は、平成28年は東京都(文京区)、平成29年は宮城県(仙台市)、平成30年は東京都(江東区)、令和元年は愛知県(名古屋市)、令和2年は広島県(広島市)、令和3年は岩手県(釜石市)、令和4年は兵庫県(神戸市)、令和5年は神奈川県(横浜市)、令和6年は熊本県(熊本市)、令和7年は新潟県(新潟市)でした。

本件問合せ先 :

内閣府政策統括官(防災担当)付
参事官(内閣府(普及・防災教育・NPOボランティア連携担当)付
細野、大場、北濱、平川
TEL: 03-5797-7922

共に考え・備え・守る ~「支え愛」で守る命と暮らし~

【趣旨】

- 日本は、地震、津波、大雨、台風、火山噴火、豪雪等様々な自然災害の影響を受ける環境にあり、特に、近年の自然災害は激甚化・頻発化しており、毎年、各地で被害が相次いでいます。また、南海トラフ地震や首都直下地震等大規模災害の発生が懸念されています。
- 一方で、我が国はこれまで、災害が発生する都度、その経験と教訓を踏まえて、被災地対応に関する課題等を洗い出し、災害対応を進化させてきました。
- 防災は行政だけで目標を達成できるものではありません。国、地方自治体に加えて、保健・医療・福祉関係者、企業、業界団体、大学・研究機関、NPO／NGO、ボランティア等の地域関係者、そして国民一人ひとりが、災害大国に暮らしていることを自覚した上で、災害を自分事化するとともに、共に考え、共に備え、共に守り、総力を結集し、共に未来を築いていくことが重要です。
- 鳥取県は、鳥取県西部地震（平成12年）や鳥取県中部地震（平成28年）での対応を踏まえ、一人ひとりの命と暮らしを大切に守りたいという思いのもと、地域と連携した「支え愛マップづくり」や「災害ケースマネジメント」等の取組を推進してきました。また、本年1月6日の島根県東部を震源とする地震では、鳥取県西部を含む幅広い地域で最大震度5強を観測しました。鳥取県は、これまでの経験を踏まえ、発災後速やかに自治体、防災関係者及び地域等が緊密に連携し、迅速な復旧に対応しました。
- 11回目を迎える2026年のぼうさいこくたいは、「共に考え・備え・守る ~「支え愛」で守る命と暮らし~」をテーマとして、鳥取県中部地震やこのたびの地震等の様々な災害での鳥取県の経験や教訓と、全国から集まつていただく方々の知恵や知識を織り交ぜ、鳥取の地から発信していくことにより、オールジャパンで防災や減災について考える機会になればと考えています。そして、この「ぼうさいこくたい」を通じて、人と人との結びつきや多様な主体の連携・協働がより強固なものとなり、我が国全体の防災力の向上につながっていくことを願っています。